

応援団総部 70 年の歴史

応援団総部 濱口宸也（昭和 41 年卒）

1. 日本の応援団の発祥

日本の応援団の始まりについては諸説あるようですが、断片的な資料から推測いたしますと、旧制高等学校の運動部の対抗試合を応援するために組織されたのが始まりと考えられます。それは 1890 年（明治 23 年）に旧制第一高等学校（現東京大学）と東京高等商業学校（現一橋大学）との間で行われた対抗試合（隅田川でのボートレース）でのことで、そのとき一高生の応援団によって歌われた歌が応援歌の始まりといわれています。1903 年（明治 36 年）には野球の早慶戦が始まり、両校の応援団が応援を行っています。

2. 応援団総部 70 年の歴史

関学の応援団は現団長で第 70 代の団長です（寄附講座開講当時）。応援団は、戦争による空白期間のあと、戦後すぐの混乱期のさなかに新たに誕生しました。具体的には、関西六大学野球リーグ戦が昭和 21 年春に復活し、伝統の関関戦も西宮球場で始まりました。関大では、多くの応援団員が応援旗の下に盛んな声援をしているのに、学院にはまだ応援団がありませんでした。学生たちは、ただ雑然と声援しているばかりでした。そんなことが刺激になって「学院に応援団を作ろう」の声が起こり、6 月になって当時の自治委員長らを中心にわずかな有志で一応の形ができました。それは有志連合の域を出ず、さらに学院全体に広げようということになりました。

現在は大学ですが、その頃は大学の法、文、経、神の各学部と、大学予科、高等商業部、理工専門部、文学専門部、に分かれていて、これを一本にまとめることが急がれました。円満な人柄で学部内の人望を集めていた本郷博造氏が初代団長に選ばれ、一本化が成り、全学挙げての応援団が学生会の組織として正式に発足しました。

1946 年（昭和 21 年）「建学の精神を体し、自治の精神に則り、学徒の思想、情操・風紀・運動・文化等多面的な分野において後援し、学院の先駆け足らんこと」を目的として発足しました。当時の応援団の目的、使命は大きく分けて 3 つあったと思います。

- 1 は 試合に臨んで観衆へ応援の指導を通して自校を勝利に導くこと。
- 2 は その活動を通して学校への帰属意識を高めること。
- 3 は 学校の治安維持、そしてスポーツ試合の時などに自校の学生を外部の暴力から守ること。

ちなみに応援団のバッチは盾をデザインしたものです。今では 3 の学内での治安維持、自校の学生を暴力から守るというようなことは、時代の変化とともになくなりました。



(左) 応援団のバッジ (右) 昭和 21 年創立当時のメンバー
(写真提供：執筆者)

当時は学生スポーツが盛んで、「西の早慶戦」と歌われた野球の関関戦は、昭和 30 年代、リーグ戦随一の好カードとして野球ファンをわかせました。関学、関大両校応援団も母校勝利のため全精力を傾けました。一例を挙げると、まず前夜祭に御堂筋を難波から大阪市役所前まで車を規制して、両校応援団旗を先頭にパレードをしていました。そして、市庁舎前で両校エールの交換をして前夜祭パレードは終了です。

当時の写真をご覧ください。写っている学生は、現在全員 75 歳以上です。歴史を感じます。応援の順序は、最初に両校応援団挨拶、次いでエールの交換、そのとき鳩が飛び立って非常に壮観であったそうです。試合中は拍子物やブラスバンドの奏でるマーチが交互に入り応援歌を歌い、試合終了後のエールの交換で幕を閉めました。



昭和 30 年代初期の硬式野球「関関戦」
(左上より) 御堂筋パレード・両校応援団の挨拶・応援風景・エール交歓
(写真提供：執筆者)

話は戻りますが、応援団の歴史は古い方がいいと思われています。これは戦後を区切りとしたものであって、関学の応援団も他校の応援団のような数え方をすると 100 年を遥かに超えています。それ以前の状況は、関西学院の先輩で直木賞作家、元参議院議員の今東光氏（1898～1977）の小説「悪太郎」の冒頭に出てきます。今東光氏が関西学院中

学部を退学になったのは1914年（大正3年）のことです。これは学院創立25年目です。推測すると応援団の歴史は、学院創立10年目位にはすでにできていたと思われますから、少なくとも115年ぐらいはあるでしょう。

応援団も戦後の関学体育会のめざましい発展と相俟って飛躍することになります。1954年（昭和29年）、ブラスバンド部（現在の吹奏楽部）の設立を誓願し設立に至ります。こうして応援団は、総部体制の確立とともに建学の精神“Mastery for Service”の現実版として「愛され、信頼される応援団」をモットーにして、全学の自治活動にも力を傾けてきました。

さらに1966年（昭和41年）には、神戸女学院の手解きを受けたバトントワリングが正式に加入し、現在の応援団総部の3部体制が確立されました。

吹奏楽部は1962年（昭和37年）から1977年（昭和52年）にかけ、全日本吹奏楽コンクールで16連覇（招待演奏3回を含む）し、大学吹奏楽団のトップに長らく君臨し全国に広くその名を知られています。

バトントワリング部はアメリカ遠征を行い、以後、チアリーダー部と名称を変更することとなりました。「ドルフィンズ」と名乗り始めたのは1991年（平成3年）のことです。

阪神大震災のボランティアでは、学院の一つの核となって、被災の人々への救援活動を初めとして神戸市内の激震地での演奏も行ってきました。神戸市長田区の若松公園では「そんなあなたを応援します」は三部一体となって事前に申し込みのあった方々にエールを送っています。東日本大震災の慰問で東北に出かけ、東北大学、東北学院大学、関学の3応援団で東北学院大学の校内で慰問イベントを行い、被災者の方々より感謝の言葉をいただきました。同窓会支部総会には多くの支部様よりご招待いただき、喜んでいただいております。



オープンキャンパス



入学式



「そんなあなたを応援します」



東日本大震災被災地応援プロジェクト
(写真提供：執筆者)



同窓会支部総会
(写真提供：執筆者)

3. 校歌

関西学院には四つの校歌があるのをご存じですか？

校歌

「Old Kwansei」

米国プリンストン大学のカレッジソングを一部改変したもの。「空の翼」が校歌として制定されるまでよく歌われた。

「A song for Kwansei」

イギリスの詩人エドモンド・ブランデンが関西学院に来院の際に作詞を依頼され、創立 60 周年を記念して作られた。

「空の翼」

1933 年（昭和 8 年）大学昇格を祝い山田耕筰作曲、北原白秋作詞で作られた。

現在では特殊なとき以外は「空の翼」が歌われている。

「緑濃き甲山」

戦時中英語の歌詞があるため歌うのがはばかられ第二校歌として作られた。

4. 現役のみなさんへ

応援団総部の幹部交代式は「お祈り」から始まります。このような学校は世界中に閑学しがないでしょう。またその後に唱和される「五訓」（行動規範）には応援団総部の理念・モットーと心意気がよく出ています。

「五訓」

- 一、我々応援団は建学の精神を尊重し“Mastery for Service”を体現することで、閑学の振興に努めます。
- 一、我々応援団は応援活動を通じ、閑学に勇気と力を与え、母校愛へと結びつけ一体感を持たせます。
- 一、我々応援団は自己の鍛錬と人格の陶冶を図り、閑学生 of 範たることを目指します。
- 一、我々応援団は“愛され且つ信頼される応援団”として閑学の勝利と発展に寄与します。
- 一、我々応援団は前訓を省み、団員の一員であることに誇りを持って活動します。

今までご紹介させて頂いた関西学院大学応援団総部とは、まさしくこの“Mastery for Service”の理念のもと、それを体現しているということができるのではないのでしょうか。応援団総部は理念やモットーを継承し、時の現役学生の努力とその陰で学院内外の多くの方々のご指導を賜り、幾多の困難を克服してまいりました。よき伝統の踏襲と新しい伝統の創造が応援団総部のテーマです。たゆみない前進を続けて行くことを期待して止みません。

最後に、現役の皆さんには、貴重な4年間で社会人人生の基盤作りという気概を持って、学業は勿論ですが、学業以外の活動を通じてさまざまな能力やタフネスさも培って、社会でも“Mastery for Service”を体現して頂きたいです。



(写真提供：執筆者)



(写真提供：執筆者)